

受益者の皆様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「日本株ロボット運用投信」は、2018年6月15日に第9期決算を行いました。

当ファンドは「日本株ロボット運用マザーファンド」を通じてわが国の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。株式への投資は、原則として複数のシステム運用手法を組合わせて行います。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**日本株ロボット
運用投信
愛称:カブロボファンド**

商品分類 (追加型投信 / 国内 / 株式 / 特殊型)

第9期 (決算日 2018年6月15日)

作成対象期間 : 2017年6月16日 ~ 2018年6月15日

第9期末 (2018年6月15日)	
基準価額	11,465円
純資産総額	1,086百万円
第9期	
騰落率	4.2%
分配金合計	500円

(注) 騰落率は収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、約款において運用報告書 (全体版) を電子交付することが定められています。運用報告書 (全体版) については下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記URL⇒ファンド情報⇒当ファンド名を選択⇒各種資料のダウンロード⇒「運用報告書 (全体版)」を選択

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

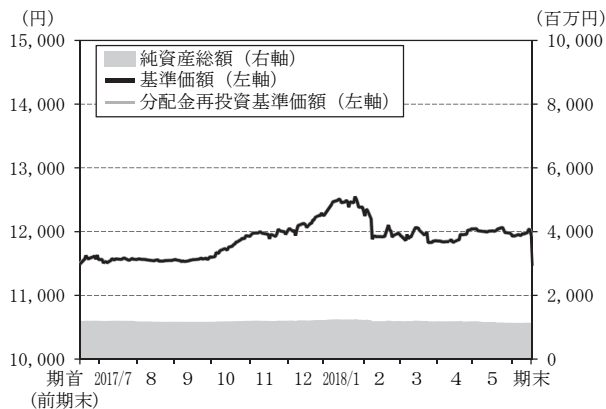
投信営業部 03-6722-4810

(受付時間 : 営業日の午前9時~午後5時)

<http://www.tdasset.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移



第9期首：11,487円
 第9期末：11,465円（既払分配金500円）
 騰落率：4.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、期首（2017年6月15日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
 (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

基準価額（分配金再投資ベース）は4.2%上昇しました。基準価額上昇の主な要因は、国内株式市場の上昇によるものです。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

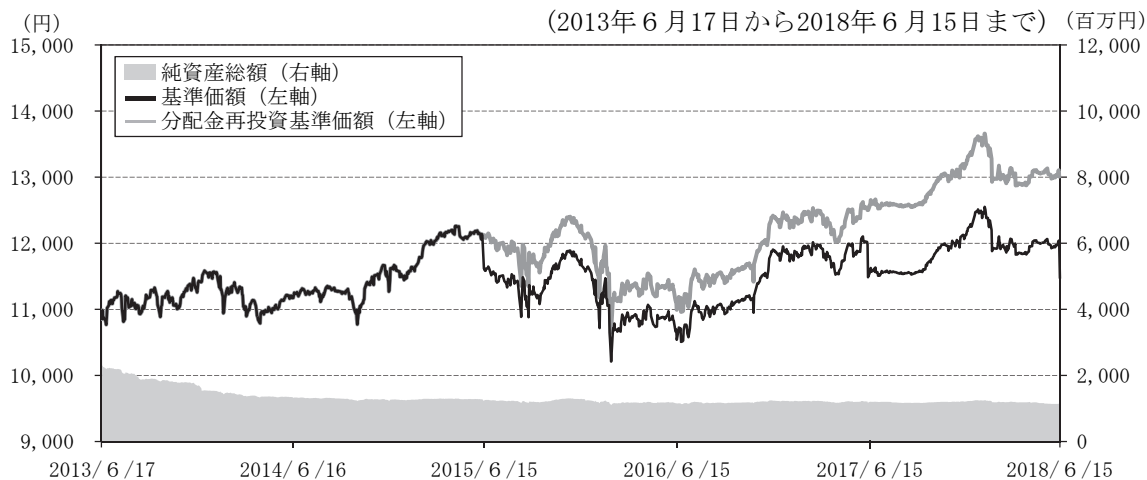
組入ファンド	騰落率
日本株ロボット運用マザーファンド	5.9%

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2017/6/16～2018/6/15		
	金額	比率	
平均基準価額	11,877円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	180円 (126) (49) (5)	1.512% (1.058) (0.410) (0.043)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	20 (20)	0.167 (0.167)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用) (その他)	1 (1) (0)	0.011 (0.011) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託に係る手数料
合計	201	1.690	

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
 (注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。
 (注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2013年6月17日) の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2013年6月17日 期初	2014年6月16日 決算日	2015年6月15日 決算日	2016年6月15日 決算日	2017年6月15日 決算日	2018年6月15日 決算日
基準価額 (分配前) (円)	10,873	11,172	11,619	10,692	11,487	11,465
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	500	0	500	500
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	2.7	8.5	△ 8.0	12.1	4.2
東証株価指数 (TOPIX) 騰落率 (%)	—	13.8	33.8	△ 22.7	24.4	12.7
純資産総額 (百万円)	2,279	1,343	1,224	1,162	1,157	1,086

- (注) 東証株価指数 (TOPIX) は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。詳細は後述の「指数に関して」をご参照ください。

投資環境

■ 国内株式市況

当期の国内株式市場は上昇基調で始まり、2017年8月には欧州でのテロ、北朝鮮のミサイル発射など地政学リスクの懸念もありましたが、情勢の緊迫化が薄れるに連れ、落ち着きを取り戻しました。

9月には、米長期金利の上昇を受けた円安ドル高や、衆院解散・総選挙の報道で東証株価指数（TOPIX）は2年ぶりの高値をつけ、米株価指数も連日の過去最高値更新となりました。10月には、総選挙の自民党圧勝とともに日経平均が史上初の16連騰を記録しました。その後も米国の税制改革法案の可決や、年明けの好調な米国決算発表により東証株価指数（TOPIX）は高値を更新しました。

2018年2月には、米国の長期金利急騰や株式市場の予想変動率の上振れで国内株が急落しました。その後も、米中貿易摩擦や米要人の解任報道など懸念材料が続きました。

4月以降は、米朝協議の進展と円安ドル高の進行が国内株のサポートとなる一方、米国の自動車関税引上げの報道でリスク回避的な動きも見られましたが、期末にかけて上昇基調となりました。

以上の結果、東証株価指数（TOPIX）は前期末比12.7%上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオ

■ 当ファンド

期を通じて「日本株ロボット運用マザーファンド」を高位に組入れました。

■ 日本株ロボット運用マザーファンド

わが国の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

株式の組入比率は、期首から2017年8月にかけては一時的に7%程度まで低下しましたが、株式市場が上昇に転じた9月には概ね60%まで上昇しました。10月には概ね20%まで株式の組入比率は低下しましたが、11月から2018年1月にかけては、株式市場が騰勢を強める中、組入比率は概ね40%~60%の水準で推移しました。その後、2月から5月にかけては、世界的にリスク回避の動きが広まったことを受けて株式の組入比率は概ね10%~30%の水準に低下しましたが、6月には株式市場が反発したことで、組入比率は概ね60%まで上昇しました。

各ロボットへの基本配分比率については、期首は、NtRider-Exp20%、Mikazuki30%、Active Algonoid10%、SD40%とし、2017年6月まで運用しました。

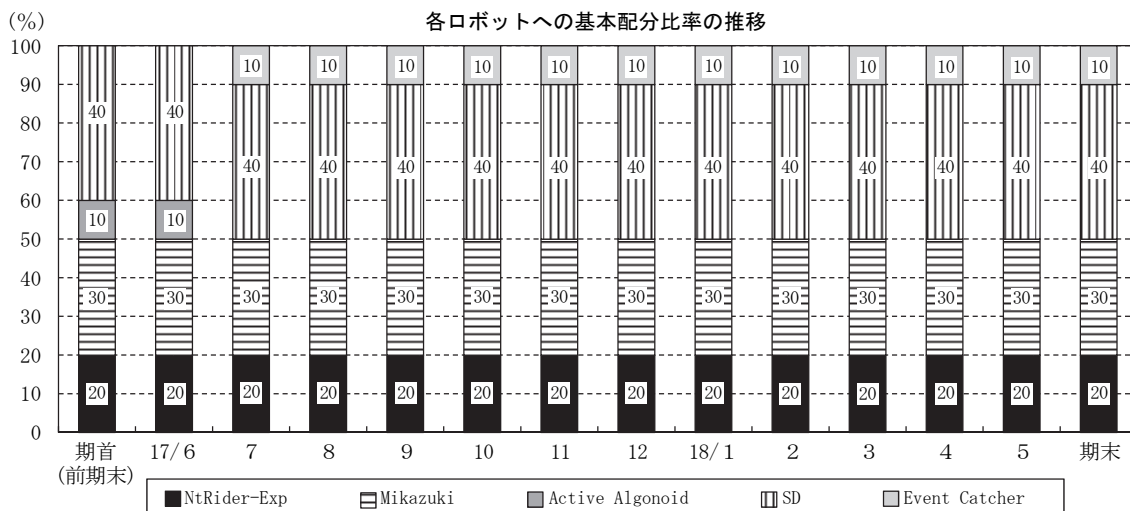
6月末に基本配分比率を見直し、7月よりActive Algonoidへの配分を終了した一方、新ロボットであるEvent Catcherに10%配分し、期末まで運用しました。

期末時点の基本配分比率は、NtRider-Exp20%、Mikazuki30%、SD40%、Event Catcher10%としました。

<各ロボットへの基本配分比率の推移>

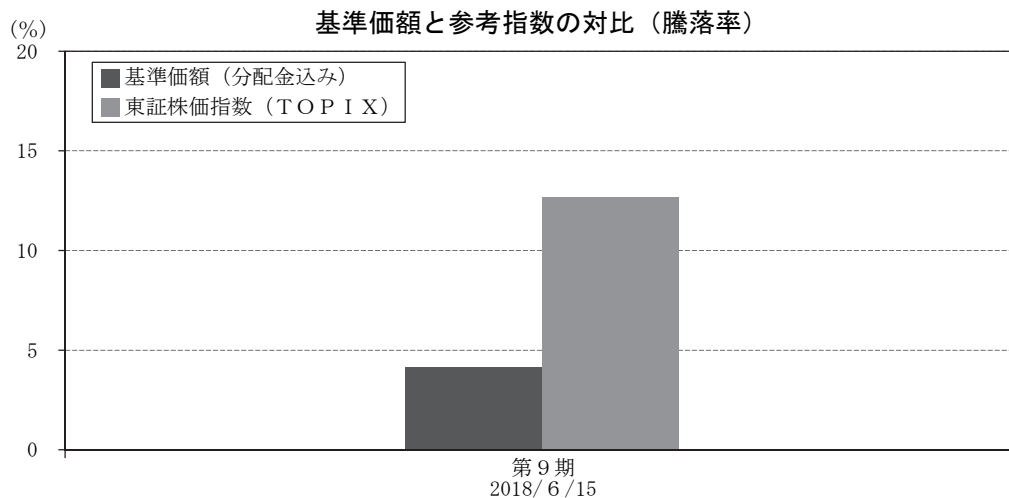
各ロボットの特徴

ロボット名	配分日	配分終了日	特徴
NtRider-Exp	2009年 7月29日	—	上昇相場では、遅れている銘柄群、下げ相場では、下げ過ぎている銘柄群に逆張り仕掛ける汎用性の高さが特徴。トムソン・ロイター社製のテキストマイニングAI「THOMSON REUTERS MARKETPSYCH INDICES」を搭載。
Mikazuki	2009年 7月29日	—	米相場から生まれた伝統的なローソク足分析を基にしたパターン認識の堅牢性と高い再現性が特徴。トムソン・ロイター社製のテキストマイニングAI「THOMSON REUTERS MARKETPSYCH INDICES」を搭載。
Active Algonoid	2010年 5月 1日	2017年 6月30日	短期的な株価の反発局面を収益機会にする。複数期間の株価などから独自に指数を算出、タイミングを計る。現在のマーケット環境に沿うよう、自動的に学習された指数が用いられる。
SD	2016年 8月 1日	—	決算発表後の値動きに注目し、保有株を入替える。市場全体の変動率を監視して組入比率を変えていく機動性が特徴。トムソン・ロイター社製のテキストマイニングAI「THOMSON REUTERS MARKETPSYCH INDICES」を搭載。
Event Catcher	2017年 7月 1日	—	決算発表と出来高の急増を監視し、ポジティブなイベント発生後のトレンドに乗ることを繰り返す反復性が特徴。トムソン・ロイター社製のテキストマイニングAI「THOMSON REUTERS MARKETPSYCH INDICES」を搭載。



当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は基準価額水準等を勘案し、500円とさせていただきます。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	当期
	2017年6月16日 ～2018年6月15日
当期分配金	500
(対基準価額比率)	4.179
当期の収益	437
当期の収益以外	62
翌期繰越分配対象額	1,464

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

■ 当ファンド

「日本株ロボット運用マザーファンド」を主要投資対象とし、マザーファンドの組入比率を高位に保って運用を行います。

■ 日本株ロボット運用マザーファンド

わが国の株式を主要投資対象とし、複数のロボットを組合わせた機動的な売買を行うことで、中長期的な信託財産の成長を目指します。

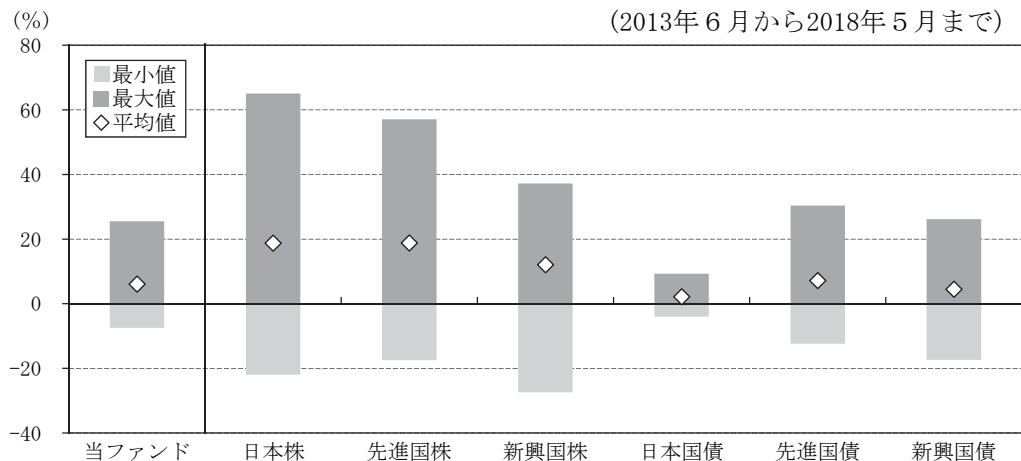
運用に当たっては、トレード・サイエンス株式会社（投資顧問会社）よりロボットからの株式売買指示に基づく投資助言を受けます。運用を行うロボットの選定は、投資顧問会社が行います。同社は、投資ユニバースを東証第一部上場銘柄から選定します。また、運用成績の改善等を目的に、ファンド内で稼動する各ロボットについては、投資環境の変化等に応じて、その数や各ロボットへの投資配分、さらにその組合わせなどについて適時検討を行い、その局面で最適と考えられる運用を目指します。得意領域の異なる各ロボットの組合わせにより、マザーファンド全体としての運用力、守備範囲をより拡大させるため、継続的に優秀なロボットの発掘と入替えを行うこととします。

当該投資信託の概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式／特殊型	
信 託 期 間	信託期間は原則無期限です。	
運 用 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ・ マザーファンドを通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資します。 ・ 株式への投資は、原則として複数のシステム運用手法（以下「ロボット」といいます。）を組合わせて行います。 ・ マザーファンドの運用に当たっては、トレード・サイエンス株式会社（以下「投資顧問会社」といいます。）より、ロボットからの株式売買指示に基づく投資助言を受けます。組入れロボットの選定は、投資顧問会社が行います。 ・ 投資ユニバースは、投資顧問会社が東証第一部上場銘柄の中から選定します。 ・ 組入れロボット、ポートフォリオ構築手法ならびにリスク管理手法などは、運用成績の改善等を目的として見直しを継続的に行うため、変更される可能性があります。 	
主 要 運 用 対 象	ベビーファンド	日本株ロボット運用マザーファンドを主要投資対象とします。
	マザーファンド	主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資します。
組 入 制 限	ベビーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。信用取引および株式の借入れにより株式を売付ける指図は行いません。
分 配 方 針	分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

【参考情報】

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	6.1	18.8	18.8	12.1	2.2	7.2	4.5
最大値	25.5	65.0	57.1	37.2	9.3	30.4	26.1
最小値	△7.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

(注) 上記は、2013年6月から2018年5月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) 当ファンドおよび代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 騰落率は直近月末から60ヵ月遡って算出した結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※詳細は後述の「指数に関して」をご参照ください。

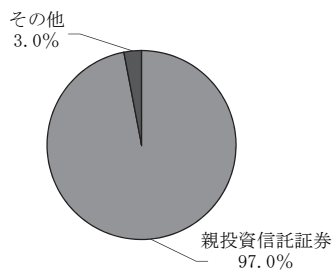
当該投資信託のデータ

当該ファンドの組入資産の内容

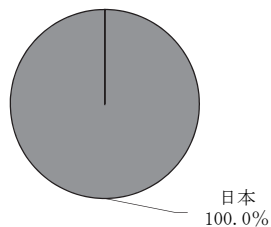
■ 組入（上位）ファンド（銘柄）

銘柄名	当期末
	2018年6月15日
	比率
日本株ロボット運用マザーファンド	97.0%
その他	3.0

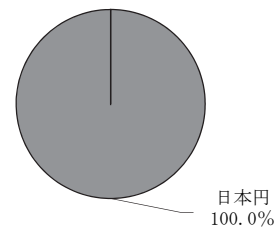
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入（上位）ファンド（銘柄）および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

純資産等

項目	当期末
	2018年6月15日
純資産総額	1,086,930,403円
受益権総口数	948,056,616口
1万口当たり基準価額	11,465円

(注) 期中における追加設定元本額は111,174,667円、同解約元本額は170,450,694円です。

組入上位ファンドの概要

日本株ロボット運用マザーファンド（2017年6月16日から2018年6月15日まで）

■ 基準価額の推移



■ 株式組入上位10銘柄（組入銘柄数：30銘柄）

銘柄名	業種	比率
イオン	小売業	2.7%
東海カーボン	ガラス・土石製品	2.5
パナダイナムコホールディングス	その他製品	2.5
GMOインターネット	情報・通信業	2.5
レンゴー	パルプ・紙	2.4
日本触媒	化学	2.4
ユニ・チャーム	化学	2.3
住友ベークライト	化学	2.2
ニトリホールディングス	小売業	2.2
東京海上ホールディングス	保険業	2.2

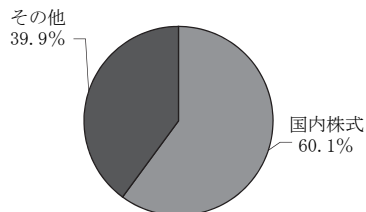
■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	2017/6/16～2018/6/15	
	金額	比率
平均基準価額	14,665円	
(a) 売買委託手数料 (株式)	25円 (25)	0.172% (0.172)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	25	0.172

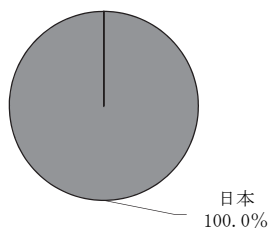
■ 債券組入銘柄

当期末における債券の組入れはありません。

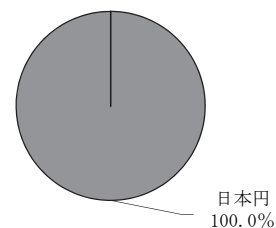
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入銘柄および各配分のデータは直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 1万口当たりの費用明細は直近の決算期のものです。費用項目につきましては1ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

指数に関して

○当ファンドの参考指数について

当ファンドは、東証株価指数（TOPIX）【出所：東京証券取引所】を参考指数としております。

東証株価指数（TOPIX）

東証株価指数（TOPIX）とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPMorganGBI-EMグローバル・ディバースファイドは、JPMorgan社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPMorgan社に帰属します。